

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3131	施策名	市民一人一人が健康づくりに取り組むまち	主 担 当 課	健康医療課
大項目	安心して暮らせるまちづくり				
基本 方針	市民一人一人が、生涯において健康づくりに励み、安心して暮らせるまちを目指します。 また、市民が生活習慣病予防や介護予防に自ら取り組めるような環境をつくるとともに、生活習慣病や要介護状態の早期発見・早期対応の保健体制を整えて、市民の健康寿命を延ばします。			関 係 課	長寿支援課
					市民課

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	健康増進計画の進行管理業務												
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		健康づくりを地域に広める団体を育成し、市民と協働して「地域でのふれあいを通して、いきいきと心豊かに暮らせるまち」づくりを推進する。			「いきいき笠岡21」健康づくり計画の実施 ・「いきいき笠岡21」評価推進委員会の活動支援 「いきいき笠岡21」健康かぶとがにウォーキング大会の実施 「いきいき笠岡21」評価項目と今後の目標値設定 ・「いきいき笠岡21」庁内プロジェクトチームの稼働								
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度					
取組内容		●「いきいき笠岡21」の推進 ・「いきいき笠岡21」健康づくり計画などの次期計画の作成 ●食育推進計画の推進 ・食育推進計画の見直し ●保健団体の育成 ・保健団体の活動支援		⇒		⇒		●健康づくり計画(第2期計画)の推進 ●食育の推進 ・食育のホームページを普及啓発 ・栄養成分を表示する店舗の募集 ●保健団体の育成 ・保健団体の活動支援					
直接事業費		決算額	1,037	千円	決算額	1,433	千円	決算額	1,627	千円	決算額	861	千円
		うち一般財源	1,037	千円	うち一般財源	1,433	千円	うち一般財源	1,627	千円	うち一般財源	861	千円

2		生活習慣病及び介護予防事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民(健診種類によって異なる)		生活習慣病予備軍の早期発見に努めるとともに、糖尿病など重点対策疾患を予防し、医療費の適正化を図る。 65歳以上虚弱高齢者に介護予防事業を実施して、高齢者の要介護(支援)状態を予防する。				・制度改正に伴う新たな効率的・効果的な健康診査・保健指導体制の充実 ・壮年期の生活習慣病予防のための意識の向上を目指したポピュレーションアプローチの強化 ・高齢者の健康診査と介護予防事業の連携強化							
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度					
取組内容		●特定健診・特定保健指導の実施 ●健康相談・教育、訪問の実施 ●健康管理手帳の作成、交付 ●肝炎検査の実施 ●後期高齢者健診の実施 ●生活機能評価の実施 ●歯科保健事業の実施		⇒		⇒		⇒					
直接事業費		決算額	25,136	千円	決算額	35,579	千円	決算額	37,368	千円	決算額	39,922	千円
		うち一般財源	15,754	千円	うち一般財源	27,059	千円	うち一般財源	29,069	千円	うち一般財源	27,754	千円

3	がん検診事業												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
・会社、医療機関等でがん検診を受診しない市民ほか(検診により異なる)		各種がんの早期発見、早期治療により、がん死亡率の減少を図る。 また、早期がんの治療により医療費の削減が図れるため、市民の医療保険料の負担軽減につながる。					・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(平成10年3月老人保健課長通知)」に基づき、6種類のがん検診を医師会等と協議しながら実施する。 ・がん死亡率の低減に向けて、がん検診の受診率向上を図るため、集団検診・市内医療機関による個別検診を実施する。						
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			
取組内容	●各種がん検診の実施 ・女性のがんの節目検診(無料クーポン券発行)、償還払いの実施 ・働く世代の大腸がん検診(節目年齢に無料クーポン券発行) ・受診しやすい環境づくり(医療機関による個別検診受診期間の拡大、検診料金の見直し)			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	40,940	千円	決算額	45,659	千円	決算額	50,332	千円	決算額	57,264	千円	
	うち一般財源	33,821	千円	うち一般財源	45,659	千円	うち一般財源	43,597	千円	うち一般財源	51,070	千円	

4	健康危機管理対策(感染症予防)事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		高齢者のインフルエンザ・肺炎球菌予防接種を実施して、感染症の発症を予防する。また、新型インフルエンザなど新たな感染症に対応するための体制を整える。				・高齢者へのインフルエンザ予防接種の実施 ・高齢者への肺炎球菌予防接種の実施							
		平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容		インフルエンザワクチン等の予防接種			⇒			⇒			インフルエンザ予防接種の実施 肺炎球菌予防接種の実施		
直接事業費		決算額	25,220	千円	決算額	24,607	千円	決算額	36,736	千円	決算額	32,031	千円
		うち一般財源	25,220	千円	うち一般財源	24,607	千円	うち一般財源	36,376	千円	うち一般財源	31,803	千円

5	公衆衛生対策業務											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
飼い犬と飼い主		狂犬病の発生を予防すると同時に蔓延を防ぎ、人間への感染を防止する。					狂犬病予防及び犬の登録					
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	・ 畜犬の登録管理 ・ 集合注射の案内及び実施 ・ 飼い主のマナー啓発			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	589	千円	決算額	457	千円	決算額	633	千円	決算額	493	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

<3.施策の直接事業費(2の合計)>

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
直接事業費	92,922	千円	107,735	千円	126,696	千円	130,571	千円
うち一般財源	75,832	千円	98,758	千円	110,669	千円	111,488	千円

<4.指標>

指標名				目標・実績の推移					
				H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1 「平均寿命」と「健康寿命」との差 (カッコ内は女性)	単位	目標					1.3(3.1)	減少	減少
	%	実績			1.80(3.88)	1.31(3.17)	1.31(3.17)	1.34(3.28)	
		達成率							
2 がんの標準化死亡比 (カッコ内は女性)	単位	目標							100以下
	%	実績				85.6(86.2)	87.3(87.1)	92.3(90.6)	
		達成率							
3 脳血管疾患の標準化死亡比	単位	目標							100以下
	%	実績				76.7(80.6)	78.8(82.1)	86.2(86.9)	
		達成率							
4 心疾患の標準化死亡比	単位	目標							100以下
	%	実績				94.3(92.0)	96.7(85.9)	90.6(82.6)	
		達成率							
5 肺炎の標準化死亡比	単位	目標							100以下
	%	実績				86.5(97.1)	86.3(90.5)	87.0(83.1)	
		達成率							

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・予防医療が重視されており、健診の受診しやすさを向上させるための積極的な工夫が必要と考えられます。	→ 特定健診受診率の向上策として、受診対象者全員に対して、愛育委員による受診券の配布を継続し、ひとりひとりへの声かけ訪問を大切にします。さらに、未受診者に対して、特定健診やがん検診の受診履歴から受診勧奨すべき対象者を抽出し、適切な勧奨資材を作成し個別に受診勧奨を行います。また、医師会と連携し、総合健診化の推進や市内の医療機関で実施する個別健診の拡大等受診しやすい環境づくりに努めます。
・高齢化が進む中で、生活習慣病及び介護予防事業は今後非常に重要な事項になってくるものと思われる。医療費の伸びを抑えるためにも、効果的な対策を実施していただきたい。	→ 健康寿命の延伸を目的とし、“食の見直し”と“今よりも10分多く歩くといった運動の推進”を進め、生活習慣病の発症予防に努めます。また、新たに重症化予防の視点から平成26年度にはレセプトデータや国保データベースなどを総合連携してデータヘルス計画の策定を行い、本市の医療費を増加させる疾病の原因を明らかにすることによって、現在の保健事業の見直しを行い、効果的効率的な事業を推進します。

<6.平成26年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	---

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案	健康寿命の延伸を図るためには、生活習慣病の予備軍を増やさない取り組みが大切です。そのために、生活習慣の改善(一次予防)、病気の早期発見・早期治療(二次予防)の実現に向けた取り組みを実施します。 具体的な取り組みとして、愛育委員協議会や栄養改善協議会、ヘルスアップ推進会等の保健団体や、生活習慣病予防を目的とした自主グループへの支援の強化を行います。また、生活習慣病予備軍への保健指導を強化するとともに、治療中断者への保健指導の充実を図ります。
--------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント	・よくなされている。			